

平成30年12月（1980年） No, 636

今年を振り返って

「平成」最後の年、いろいろありました

会長 合原一夫

今年も師走を迎えました。「平成」最後の年末年始となります。振り返ってみますと、自然界の出来事では夏の猛暑、地震、大型台風などが身の周りに 起きました。幸い会員諸氏にはこれらによる大きな災厄は無く、無事乗り切ってこられたことはご同慶の至りです。

一方、4月には有村会員が亡くられました。長い間アマチュア映画界にあって生涯一千本を越す作品を制作され、また大阪ビデオクラブ（OVC）の代表として会を運営して来られました。改めてご冥福をお祈りいたします。

次に10月に前田茂夫幹事が一身上の都合で退会されました。今までOMCニュースを長年担当してこられたこと、来場案内者名簿の管理もやって頂いてきました。これらは後に続く世話役さんに引き継がれますが、前田さんは一人でこれらを引受けてこられたことは大変だっただろうと、そのご苦勞ぶりに改めて感じ入ると共に感謝しております。

明るいニュースでは、あの難易度の高い丹波篠山全国コンに、河口禮志会員と中村幸子会員が入賞を果たしたこと、また中村幸子さんは春日部全国コンにも賞をとられて、OMCの存在を示して頂いたことは、まことにお目出たい知らせでした。

さて来年は6月から新元号が始まります。平成という一時代が終わるわけです。昭和もいよいよ遠くなりにはけりです。来年はOMCニュースの発行形式も見直されるなど、新しい時代に入っていく年ではないかと期待と希望を持っておりますが、これも会員各位のご協力如何にかかっています。来年もまた、どうぞよろしく願いいたします。

12月例会のご案内

- 12月は第2例会はありません。
- 通常例会：第4土曜日 22日午後6時より。難波市民学習センター第4研修室にて。
来年度の会費（10,000円）を会計に納めてください。
- 幹事会：例会日の13時より。 ■ 世話役会：例会日の15時より。第2研修室にて。

■11月通常例会レポート

11月通常例会は24日（土）18時より、大阪市立難波市民学習センター第4研修室で行われた。今月の司会は進藤氏。書記河合氏。受付兼照明係宮崎氏と森口氏。メモリー記録江村氏。ボード記入紙本氏の担当で進行した。

■出席者：井上、江村、岡本、紙本、河合、合原、進藤、関、高瀬、坪井、中川、中村、華岡、宮崎、森口、森田、山本の17氏。

1、 歙山神社宵山の賑わいー秋の大例祭 BD 進藤信男 9分30秒

京都亀岡市には、古くから人々の信仰を集めてきた延喜式式内社の歙山神社がある。社伝では和銅2年の創建と伝えられている古刹で、戦国末期、丹波は明智光秀の手で徹底的に破壊された。しかし江戸時代に入り歴代藩主の理解と保護によって、神輿や山鉦が整備された。そして町衆の手によって大国主命の神話に彩られた祭となり、彼らの手で盛大に運営されるようになったという。

作者はこのたび、この歙山神社の秋の例祭の「宵祭り」取材された。どういう町の人々がこの祭を背負っているのか、曳山(やま)の名を詳細に紹介されているので興味を持って拝見すると、応神山、竹内山、稲荷山、三輪山など。

これらは祀っている神や町の人達を示していると考えられる。難波山は「単に大阪の地名を表すのか、或いは古代百済から韓民族が多く移り住んだ、南河内の地を意味するのか、興味深く拝見した。また翁山は巡航の先頭を切ったと言うから、年寄りを大事にする土地柄だったのだろう。その意味で「尉と姥」の「高砂山」も面白い。こうなると、是非とも本祭りも拝見したくなった。

2、 播但線探訪 BD 江村一郎 7分50秒

姫路(播磨)と和田山(但馬)を結ぶ、JR播但線の廃線跡を描いた作品。播但線を走る最後のSL三重連の8ミリ映像で作品は始った。

現在の播但線の列車がカーブを切るところが、タイトルバックに使われているが、これだけで「播但線は山間部を縫って走る」ということがよく理解できる。そして殉職職員の弔魂碑、事故現場の古いカット、余儀なく付け替えられた路線と廃線区間が、無言のうちに示される。

廃線跡の現況は？ 崩れてたトンネルの入り口には木々が生い繁り、トンネルの中は真っ暗、崩れ落ちたレンガの壁面の映像には、「廃線から90年経過」のテロップ。生い茂った木々は今では大木に、湧き水が貯まったトンネルの中を、重い三脚を担いで移動するカメラマンの足取りなど、廃線跡に対する作者の並々ならぬ思い入れがシーン毎に滲み出ている、心打たれた。

3、 観心寺探訪 BD 中川良三 8分07秒

映像を拝見して「途轍もない難しい題材を選ばれたものだ」というのが、私の偽らざる感慨だった。

観心寺は南大阪最古の古刹で、空海作と伝えられる本尊の「如意輪観音座像」や、金堂は何れも国宝指定され、南大阪随一の歴史と文化を誇る古刹だが、如何にも地味で纏わる物語も乏しく、映像として纏めあげるには誠に難しい題材だと私は思っている。作品として纏めるためには、楠木正成を引っ張り出さざるを得ないだろうが、近づくと急峻で、上・下の赤坂城址を訪ねることすら容易で無いだろう。

若い頃、私も「仏像狂い」と言われたことがあるが、訪れたのは永年の間で僅か2回だけ、それもあまり印象に残っていない。

日本で重要文化財(国宝)の仏像を映像にすることは一部の専門家以外は不可能だし、「仏像を含まない古社寺文化」で、「見る人に感動を与えることは先ず不可能だろうから、写材としては「極力避けられたら」と申し上げたいのが、今の私の心境である。

4、 秋田の竿灯 BD 河合源七郎 9分

遇々先月の例会で、3つの青森「ねぶた」を一作に纏めたものを映して頂いたので、今回ほぼ同時期に撮影した「秋田竿灯祭り」をお持ちした次第。

竿灯全体を稲穂に、連なる提灯を米俵に見立てて額、腰、肩などにのせて豊作を祈る祭で、東北の夏を彩る「ねぶた」と並び称される祭。大きさは大、中、小、幼とあって大は50Kgに達し、長さは12mだが、継竹を足して大

きく湾曲した竿灯を操る技を競う人達もいて、見物していて退屈する暇のない祭である。東北の夏祭りは、7月から8月の七夕祭りまで、青森八戸の三社祭から始まって「ねぶた」、秋田の竿灯、仙台の七夕と南下してゆく。もし10~15日連続して日程が許すなら、是非ともお勧めしたいコースである。

5. 挙母祭り BD 紙本 勝 12分

挙母祭は江戸時代、挙母城下町(現豊田市)の挙母神社で行われてきたものが今に伝わると言われている。祭は、宵宮の「試楽祭」と「本楽祭」からなるが、この作品はその「本楽祭」を纏められたものらしい。

何はともあれ、主役は8基の豪快な山車で、幕末から明治初期に完成したらしい。祭は挙母神社の神事から始まり、巫女舞の奉納、神事、神輿の出御と展開する。特にナレーションはないが、事細かな映像の展開で祭の推移はよく理解出来る。

詰めかけた観衆でぎっしりの境内の中、紙吹雪が舞い山車が曳き出される、その紙吹雪の物凄さには圧倒される。そして山車を曳く町衆が若者、子供、男女入り乱れて続々と続き、町を揚げての祭であることを、見る人に納得させてくれる作品に仕上がっている。

かねて挙母祭は是非一度と勧められてきたが、今までその機会を逸して来た私にとって、十分堪能出来る貴重な作品だった。

6. イエローストーン国立公園西南部 BD 華岡 汪 12分23秒

「国民の為に永久に保存すべもの」として、アメリカが世界で初めて1872年に、国立公園に指定した「イエローストーン」。その広さは四国の半分に及ぶとか。今回は主として「間欠泉のある」西南部を訪れられたようで、従って題名は「イエローストーン国立公園西南部」となったと思われる。

日本で、雄大な間欠泉が見れるのは「別府温泉」だが、こことは比較にならないほど、小ぶりで噴出時間も僅か。作者はこの有名な間欠泉を克明に追っかけ、我々に「これでもか、これでもか」と迫ってくる。私は、日本とのスケールの違いに愕然とした。

ただ、「旅行案内」では「イエローストーンの魅力は、何と言っても様々な自然環境を見ることが出来ることにある」のに、登場した自然は、間欠泉以外数種類の草花と野鳥1羽のみ。私には、ここは「死の草原」と思えた。次回は「何とか様々な自然の表情」を見せて頂きたいという願いが残ったが、これは私の贅沢な願いだろうか。

7. 桂林・洞窟紀行 DVD 合原一夫 9分50秒

凜江沿いに拓けた桂林は、古来「山水天下第一」と称された南中国随一の観光地。その「凜江」沿いには、様々な洞窟があり、鍾乳洞も大事な観光地であるらしい。作者は旅の合間に「勧められるまま、その一つに入った」と素晴らしく巨大な洞窟の素顔を、作品に纏められた。

奥様を運ばれた駕籠も驚きでであったらしいが、中国の山地ではこのような駕籠はあちこちで利用されている。私も峨眉山で使ったことがあるが、案外楽ちんで頂上まで連れて行ってくれた。最大の驚きは、カラーのライトで照明された鍾乳洞だった。「色のついた照明なんて」、「自然らしを表した光の方が神秘的でよい」と作者は言う。私も全く同感であった。

8. 宇治・史跡の小径 BD 森口 吉正 9分04秒

先ず宇治を代表する平等院の歴史や文化遺産を訪ね、次いで日本最古の神社建築と言われる「宇治上神社」を訪れた作者は、ここでお得意の名水「桐原水」に出会った。そして宇治川に沿った「早蕨(さわらび)の小径」、「惣角(あげまき)の古跡」、「浮舟と匂宮の銅像」を河畔に辿ると言う、宇治十帖に有縁の小径にこだわり、その中に宇治の歴史と文化を、一本のビデオ作品の中で語り尽くすという、離れ業を見せて頂いた。

ただ、余りにも短時間のうちに、多くのものを取り込まれたので、掘り下げ不足の感は免れないと感じた。壮大な文化とロマンに満ちた宇治に、再度のチャレンジを期待する次第である。

9. おまんと祭

BD

高瀬 辰雄

9分50秒

愛知県東浦の稲荷神社で行われる、人と馬が一体となって行われる馬場競技を「おまんと祭」と言うらしい。

馬場に引き出された馬は、騎手と共に走りだし、束の間に「疾走」に変わる。騎手は馬のスピードに耐えられず馬の首にすがりつく。しかし馬は頓着せずさらにスピード上げ、結局騎手は振り落とされる。しかし、訓練された馬は決して騎手を踏みつないという。

馬場を疾走する馬の騎手は、再度馬を制御しようとするが、馬は頓着せず走り去る……。この馬揃えは、江戸時代「将軍に献上する馬を選別する為に生まれたお祭りだった」というが、「優勝などの選考はどうしたのだろう」という私の疑問など一瞬に吹っ飛び、何とも凄まじい、人が馬に翻弄される馬場競技だった」というのが、私の偽らざる気持ちだった。

10. ルルドの奇蹟

BD

山本 正夢

10分

フランスの聖女ベルナデッタ・スビルーによって発見された「不治の病を癒やす泉」が、「ルルドの泉」と呼ばれるようになり、今では「ルルドの奇蹟」と言われて、今なおカソリック信者の巡礼が絶えないという。(この項: ウィキペディア情報)現代の我が国では、このような現象の類似のケースがなく、理解することは非常に困難だが、嘗ては平安後期に「蟻の熊野詣」と言われた現象があったし、江戸後期には「伊勢のおかげまいり」いう、大衆信仰の波が押し寄せていた。

これらは文献にも度々登場しているので、日本の文献(絵画情報になるが)と比べて比較観察すれば、日本でも理解が深まり、面白い作品になるかも知れないと思ったが、どうだろうか。

11. 季節のなかで

BD

中村幸子

7分

作者がドキュメントを手がけるようになる前、「様々な写材を集めるべく取材した映像を纏めてみた」というコメントがあった。しかし撮影場所の狙い、纏めた意図、などにはコメントはなかったので、例会では、映写したという記録のみに止めておくこととした。

■ 第2例会レポート

11月第二例会は第三木曜日15日13時より、会場の難波市民学習センターにて行われた。

朝夕めっきり冷え込むようになった今日この頃ですが、紅葉も見頃でカメラ持って撮影に行かれた方も多いと思うが、いずれ作品を例会で見せてほしい。

さて、今回から第二例会の書記役は簡素化のため取りやめ、その代わり出品者に作品のコメントを書いて出してもらった。早速指定の用紙に記入したものを作品と一緒に出して頂いた。司会役もそれを参考に司会するというメリットも出たようだ。今月の司会は柴辻氏、書記無、映写河合、メモリー記録江村、受付兼照明森下、宮崎の各氏の担当で進行した。

■出席者：江村、岡本、紙本、河合、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、中川、中村、華岡、宮崎、森下山本の15氏と作品9本

■作品上映(コメントは出品者)

1. 私がかかし

BD

岡本至弘 8分00秒

<作者コメント>

かかしとは、一本足で実りをむかえた田んぼの中にいるのが相場。奈良県は高取町のかかし祭りを撮影に出かけました。ところがまったくイメージが違うかかしワールドの世界を体験しました。

ご意見をお願いします。

【会長講評】客寄せにこういうイベントをやったんだろうに、観光客の姿がほとんど見えない。こうなったら皮肉って、かかしと「客が少ないのおー」って、作者が語りかけ世間話でもしたらどうや、という話も出たが、立派なかかしがぎょうさん居るから、なにかおもしろい作品出来そう。

それにしても題名がどうも。この題名ならかかしの立場でぼやく作品としたいものだ。



2、ソーリエル鉄道 BD

関 剛 10分00秒

<作者コメント>

2002年2月にスペイン領マヨルカ島へ旅行に行ったとき乗った観光列車。90年ほど前の木造電車が今も現役で走っていた。島全体が夏のリゾート地で、2月は完全にオフシーズン期。それでも各国からの観客で電車は超満員。



3、明延鉱山 BD

江村一郎 8分50秒



<作者コメント>

一年前に大雨の中、かつては日本一のスズ鉱山であった明延山へ行ってきました。曲がりくねった坑道を、ガイドさんの軽妙な説明で進む貴重な体験をする。

4、木蠟で栄えた町「内子」

中川良三 9分00秒

<作者コメント>

旅行記、愛媛県内子町の紹介動画。駅前からの街並み、歌舞伎小屋（内子座）、資料館を経て、豪商本芳我家の家屋群と木蠟資料館を案内し、最後に万博博覧会の成果を紹介、内子の勢いをまとめた作品。



5、ON・AIR BD

柴辻英一 17分00秒

<作者コメント>

今年の「ビデオサークル堺」の公開映写会用にと制作しました。手前みそなところもあっていやみかかもしれませんが、アマチュアもこんな所で活躍していることも知ってほしいと思います。



6、マヨルカ島 BD

山本正夢 9分00秒

<作者コメント>

スペインのマヨルカ島に行ってきました。

【会長講評】偶然、先の関さんと同じスペインの離島へ行った時の旅行記。

関作品は珍しい鉄道の描写が主だったが、山本作品は島の建物、特に教会などを丁寧に描かれていた。いずれにしても誰でも簡単に行けないところで異国情緒たっぷりの記録である。



7、雅楽をつたえるひと BD

中村幸子 6分59秒

<作者コメント>

来年は新たな天皇の即位の礼がある。1300年前から即位の礼では雅楽が奏でられる。その雅楽を30年以上つたえている一人の女性を追ってみた。

【会長講評】 前回拝見したときのものより可成りよく整理されてよくなっている。細かい点では問いかけのテロップに答えておられる声がダブっているのは、先に問いかけを出してから答えの声を出した方がよい。又、タイトルの文字はグリーンよりやはり白字に黒縁が見やすいとの関氏より指摘があった。題名は一字でも少ない方がよいので「雅楽を伝える人」が良いのではなかろうか。



8、壬生狂言 BD

高瀬辰雄 10分40秒



<作者コメント>

壬生狂言は鎌倉時代に円覚上人が仏の無言劇で説いたもので春と秋に一週間上演される。

その狂言全30演目(1演目1時間)をしてほしいと壬生寺から頼まれた人があり、その手伝いに行き撮影した作品。

ちなみに現在壬生狂言は一般のカメラ、ビデオ撮影は禁止されています。

9、髪長族の女たち DVD

合原一夫 6分50秒

<作者コメント>

中国桂林の近くに髪長族(ヤオ族)の集落があった。日本では見られない村の風景と風俗がみられた。撮影2006年(平成18年)



10、第37回 信玄公祭り BD

紙本 勝 8分03秒

<作者コメント>

撮影平成19年10月の例会作品に因んで、武田軍団が川中島合戦に出陣するのを模した信玄公祭り取材したものだが、会場の制約などもあって今一つという作品になっている「斯様な祭りもあるのか」と合点して貰えれば幸い。

祭りは毎年4月の初めで、2018年は第47回だった様子。

